

経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県 普通寺市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	-	2
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和16年6月30日/令和17年5月31日 ぜんつうじ太陽光発電所/ぜんつうじ太陽光発電所	令和16年6月30日/令和17年5月31日 ぜんつうじ太陽光発電所/ぜんつうじ太陽光発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
四国電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H30	R01	R02	R03	R04
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	3,239	3,116	3,256	3,090	3,061
合計	3,239	3,116	3,256	3,090	3,061

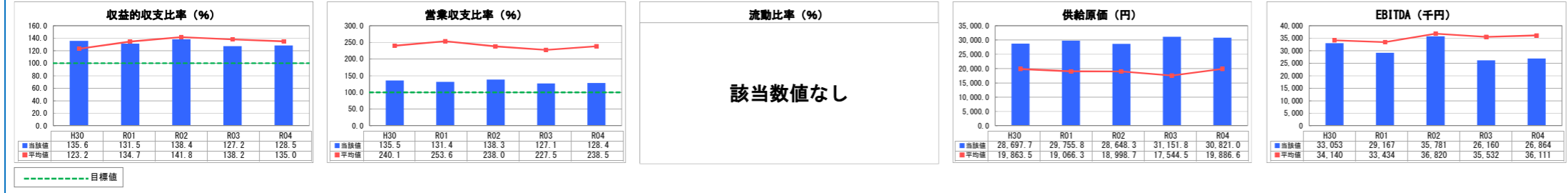
	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	110,137	110,137

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
基金への積立の有無…有	
目的：市民の安心・安全に資する事業等の推進及び発電所の維持管理等の経費	26,244千円
一般会計への繰出しの有無…有	
目的：防犯灯等LED照明管理事業	21,300千円
その他の有無…無	
目的：	千円

分析欄

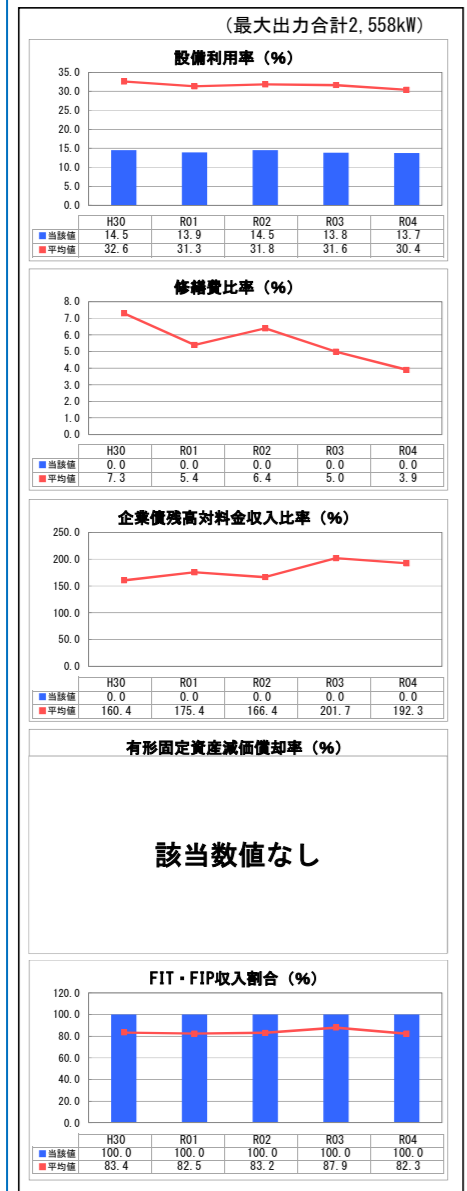
1. 経営の状況について
 令和4年度は令和3年度と比較して、5、6、8月以外は天候不良により発電量が減少した。また、令和4年度より四国管内において、出力制御が開始され、普通寺市の場合、2箇所の発電所で出力制御を合計5回行った（4、5月に4回（午前8時から午後4時まで）、3月に1回（午前9時から午後3時まで））。これにより発電電力量が約1%減となった。

1. 経営の状況

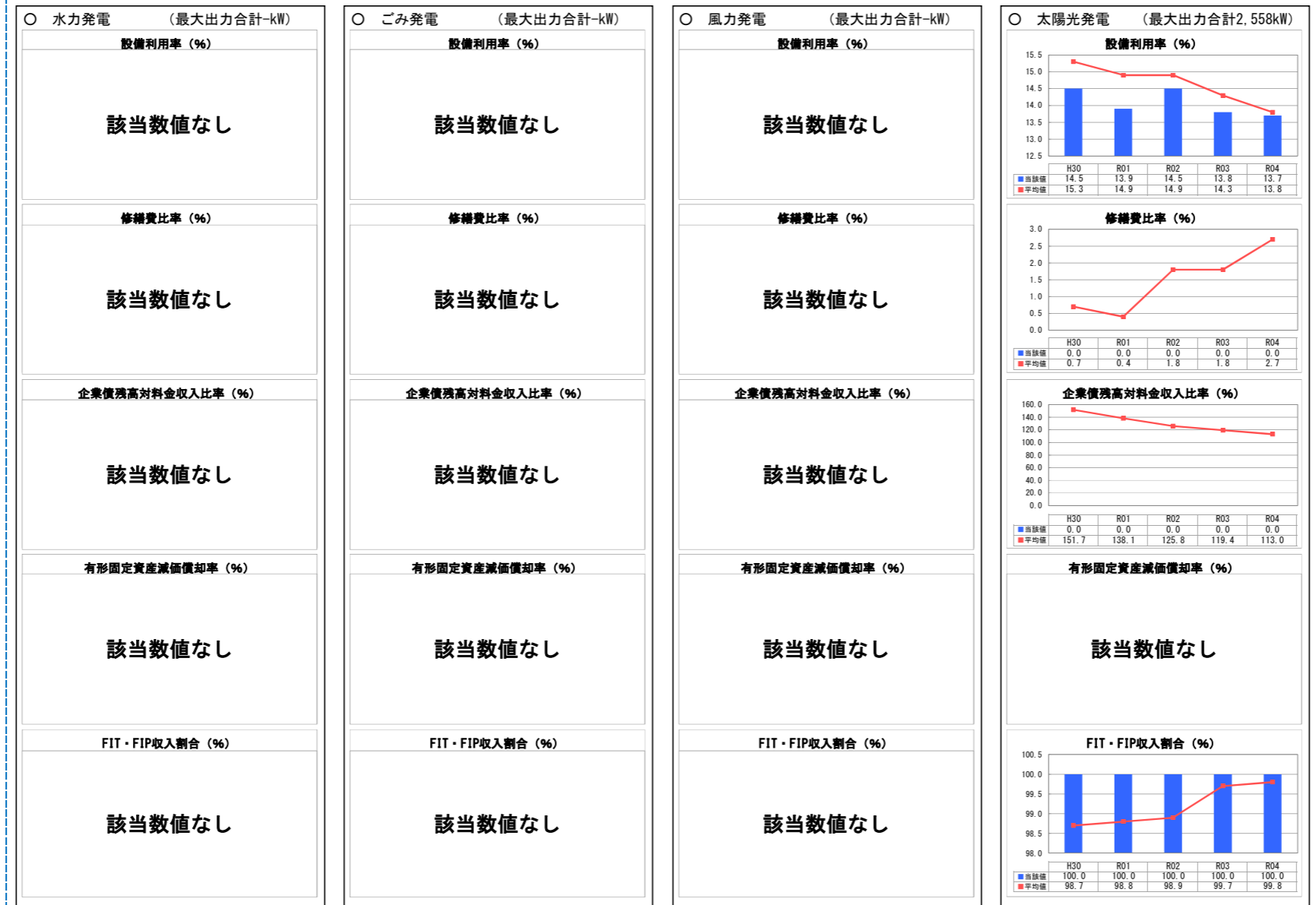


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

太陽光パネルの劣化により年0.5%の発電量の減少を見込んでいるが、2箇所の発電所ともに天候不良と出力制御が影響した。
 普通寺市の電気事業の収入は基金利子や前年度繰越金を除く、ほぼ全ての収入がFITによるものである。FIT終了後は、収入が大きく減少することになるが、事業の廃止を視野に入れ、撤去・廃棄費用として24,300千円/箇所を見込み、太陽光発電施設リース契約の中で積立てを行っている。

全体総括

電気事業の経営状況は良好である。令和5年度も四国管内において、出力制御が行われ、普通寺市の場合、2箇所の発電所で合計22回行われた。令和4年度と比較して5倍以上に回数が増えている。今後想定としては、例年と同じように春、秋のシーズンにおいて、令和5年度の回数以上の出力制御が実施されることが考えられる。一時的に売電収入が下がることが予想されるが、発電実績から考えると、収支が赤字になることはないと考えられる。

※ 平成30年度から令和4年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和4年度の団体数を基に平均値を算出しています。